

長尾鶏センター



高知県南国市篠原48
TEL.088-864-4931 ☎ 088-864-2009 夜

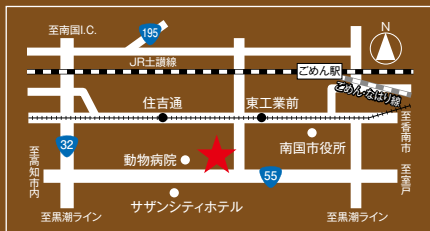
営業時間 3月～10月末 9:00～17:00
11月～2月末 9:00～16:00

定休日 木曜日

入館料 大人 500円、小学生以下 400円
(ガイド付)

アクセス

- ・JRごめん駅よりタクシー10分
- ・路面電車「住吉通」下車徒歩10分
- ・高知龍馬空港より車で約10分
- ・南国I.C.より車で約15分



特別天然記念物

土佐の ONAGADORI 長尾鶏



絶滅の危機
からの復活

白藤種

まほろばの地に生まれし

一羽の鶏ありけり

殿様の行列を飾りしその羽は

世にもまれなる長さなり

おながどり 「長尾鶏」とは

高知県南国市篠原を原産地とする「国の特別天然記念物」「南国市の鳥」に指定されている鶏です。

始まりは江戸時代の「白藤種」からで、明治の初め頃に「褐色種」が、半ば頃には「白色種」が誕生し現在に至ります。

特長は雄の謡羽と呼ばれる尾の部分の長さが長く伸びることです。通常の鶏は換羽期（羽が生え替わる時期）があり雄の謡羽は毎年生え替わりますが、「長尾鶏」は換羽せず伸び続けます。この羽の寿命は9～10年程。伸び始めの頃は一年間で40～50cm、最長で約10mほどになります。

一番長いものでは13.5mも伸びた長尾鶏がいました。

戦争で個体数が激減してしまったり、飼育するにはふ化直後から人の手が必要となること、羽の手入れに大変な手間がかかることから、年々数が減少しています。

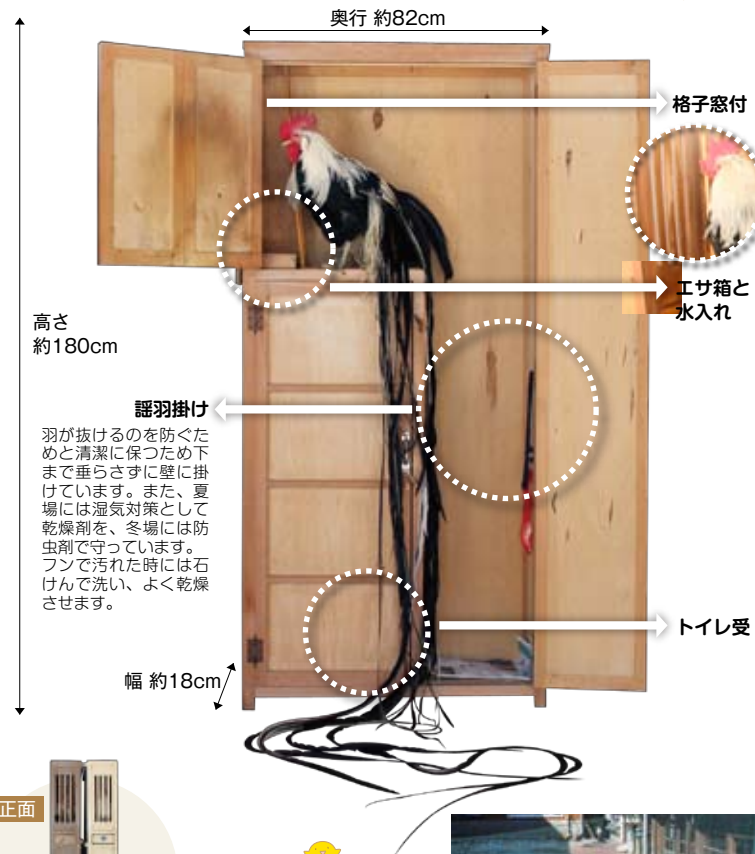
長尾鶏センターでは平成27年2月現在「白藤種」13羽、「白色種」2羽、「褐色種」1羽、合計16羽の雄の長尾鶏が飼育され、地元の保存会のメンバーと共に長尾鶏の保存に日々努めています。

長い羽になるのは雄（オス）だけ！

ギネス記録
10.6m
(1974年7月20日)

おながどり 「長尾鶏」の飼育方法

基本的には一般の鶏と同じ育て方ですが、雄は長く伸びる尾を守るため2～3歳になると個室で暮らし始めます。



リフレッシュ

鶏のストレスが溜まらないように天気のいい日には中庭で1日30分くらいの散歩をします。冬場には鳥インフルエンザ対策のため消毒作用がある石灰がまかれます。



「長尾鶏」の歴史

土佐の伝統行事「秋葉まつり」のメインとなる【鳥毛ひねり】の先端に使用されている長尾鶏の尾羽。



鳥毛ひねり



昭和30年頃の長尾鶏

江戸時代になった頃、鶏の突然変異で生まれたことが始まりです。山内家十代目藩主豊策公の時代（1820年代頃）、現在の南国市篠原の武市利右衛門により長尾鶏の原種「白藤種」が誕生しました。明治41年には大篠村（現 南国市篠原）で保存所が作られ、村と郡から補助金が出るようになります。大正12年には国の天然記念物の指定を受け、長尾鶏の貴重性が全国に認められるまでになりました。

ところが昭和に入ると戦争の時代となり、社会情勢や食糧難から長尾鶏の飼育が大変困難となっていました。

昭和23年、当時の文部省の調査により「白藤種」の雄3羽と雌6羽、「白色種」の雄2羽の合計11羽の生存が確認されましたが、「褐色種」に至っては絶滅していたことが判明しました。この危機的な状況に立ち向かったのは南国市篠原の長尾鶏の飼育者たちでした。絶滅していた「褐色種」の復活を成功させ、徐々にではありますが個体数を増やしてきました。平成27年2月現在、保存会で確認されている長尾鶏は約200羽。年2回の交流会を開催して長尾鶏の保存と継承に尽くしています。

「長尾鶏」の種類

3種に分類されます。大きな違いは特長的な羽の色にあります。

白藤種



「小国鶏」から生まれた長尾鶏の原種です。当初は肩・首の回りに茶色、黒色を有する五色（羽が白、黒、緑、黄、褐の五色）の鶏でした。その後、改良が重ねられ茶色が無くなり、現在の白藤種となりました。

白色種



「小国鶏」からの突然変異として生まれた白い鶏から作られたといわれていますが、地元では「白色レグホーン鶏（雄）」らしき鶏に白藤種を交配したといわれています。また、白藤種をさらに改良したともいわれています。

褐色種



白藤種と「東天紅鶏」を交配したといわれています。また、「小国鶏」から「五色鶏」、そして「褐色種」ができたという説もあります。第二次世界大戦中に一度絶滅してしまいましたが、戦後「東天紅鶏」の雄と白藤種の雌から再現されました。

「長尾鶏」Q&A

よく聞かれる長尾鶏の不思議です。

Q どんなエサを食べているの？

A 雄も雌も同じものを食べています。ひよこの時は茹でた黄身を、半年ほど後には細かく切った菜っ葉も加えます。1年後には配合飼料と玄米・魚粉・^{カキ}鰯ガラです。あとビタミン剤。時々^{カキ}にんにく粉もエサに混ぜます。

Q 卵は一年中産むの？

A 年にワンシーズン、春の間だけです。1羽の雌で小ぶりの卵を平均5〜6個生みます。

Q 雌はどうしているの？

A 雌同士で仲良く飼育しています。雌は羽が伸びませんから雄と一緒に生活できないんです。種鶏は雄1羽に対して雌1〜3羽と一緒に飼育しています。

Q 散歩の仕方は？

A 風の吹かない晴天の日に1日30分くらい。夏は涼しい時間帯に。羽が抜けないように常に注意していないといけないので目が離せないですよ。

Q 特別天然記念物の鳥はどんなものがあるの？

A トキ・コウノトリ・ライチョウなどが文化財保護法で指定され、大切に保護されています。コウノトリの中では、この長尾鶏だけが指定されています。

Q 寿命はどのくらい？

A 長い謠羽がある期間はだいたい9〜10年です。羽が抜けてしまうと普通の鶏と同じになりますよ。

Q 1年間で羽はどのくらい伸びるの？

A 平均40〜50cm。今までで一番の記録は1ヶ月で10cm以上伸びた鶏がいました。毎月の計測が楽しみでしたね。

Q なぜ箱に入れて育てるの？

A 謠羽を育て、保護するためです。一日中、外にいると羽がすり切れたり木にからまって抜けてしまうからです。でも鶏たちにストレスが溜まらないように散歩をさせます。

Q 箱にはいつ入るの？

A 最初は雄雌を一緒に育てます。1年くらいしてから良い謠羽になりそうな雄だけを区別していきます。1年半後あたりで長さが30〜40cmくらいになると個室に移します。

Q 今後の取り組みは？

A 飼育に大変手間がかかるため後継者が少なく、厳しい現状です。そのため長尾鶏センターでは「種の保存」のために専門機関で精子の凍結保存を行っています。

長尾鶏センター館内見取図

長尾鶏に関する新聞記事や剥製、お土産品まで取り揃えています。

平成27年2月現在35羽の長尾鶏を飼育し、16羽を展示しています。第二次世界大戦後、ほとんど絶滅の危機に陥っていた長尾鶏を創始者である窪田正や保存会のメンバーにより、観賞用に維持されています。高知県の誇る、貴重な長尾鶏をゆっくりとご鑑賞ください。



飼育箱

飼育箱

飼育箱

飼育箱

飼育箱

飼育箱

飼育箱

飼育箱

長尾鶏の展示室

剥製の展示

展示室には
いすも用意しています
ゆっくりとご鑑賞
いただけます

飼育の歴史や
皇族をはじめとした
来賓の方々の
当時の新聞記事を
展示

資料の展示

出入口

新聞記事や資料の展示

中庭

看板

特別天然記念物
となった由来を
掲げています

出入口

剥製

出入口

間近で見る剥製は
長尾鶏の優美さが
際立ちます

資料の展示

トイレ

カウンター

特産品の展示

資料の展示

出入口



案内ガイドを
務めさせて
いただいています

南向きで
あたたかい長尾鶏の
散歩専用の中庭です

見学後は
コーヒーやジュースで
おくつろぎください 別料金

やさしそうな
顔をしています
実は「ねずみ」から
長尾鶏を守っている
名猫チャチャです



特別天然記念物 昭和27年

名 称
土佐のオナガドリ
原 産 地
高知県南国市篠原
登録番号
大正12年3月7日告示
第57号
(名称)土佐の長尾鶏 おながどり

大篠オナガドリ保存会

明治41年に発足した大篠村長尾鶏保存会から始まった保存活動は、戦争により危機に陥った長尾鶏の保護のため、昭和24年3月より会の再建に取り組みました。以降、長尾鶏の増殖・改良に努めています。

日本でここだけ! 天然記念物と 記念ショット

※鳥インフルエンザ流行時は
出来ない場合があります。

